

12月



園だより

令和6年12月1日
佛教大学附属こども園

「仏教保育 12月のねらい」

にんにくじきゅう
忍辱持久

「この泥が あればこそ咲け 蓮の花」

園長 佐藤和順

カレンダーも残り1枚となり、「12月」の声を聞くと何とはなしに気忙しく感じ、周りの様子も慌ただしく思えます。園児は季節にそって、暑い頃よりも保育室などで製作活動や室内の活動を楽しんでいます。その過程の子どもの「そのようなところまで見ているの!」という観察眼の鋭さに、「すごいなあ」と感心させられることしきりです。寒さに負けず、今年最後の月を元気に過ごしていきたいと思います。

今月の保育の目標は「忍辱持久（にんにくじきゅう）逃げ出さず試練に立ち向かう」です。「忍辱」とは、忍耐すること、辛抱すること。「持久」とは、長い時間持ちこたえること、目的に向かって心を合わせ努力することです。私たちは生きている間に大なり小なり辛いことや苦しいことに会います。そのような困難から逃げ出さず、自分に与えられた試練と受け止めて努力を重ねたなら、心は確実に鍛えられ、向上するに違いありません。また決して諦めず、目標に向かって努力を重ねていくことで人間的に大きく成長することを目指しましょうということです。

人間は望む望まないに関わらずいろいろな困難に出会ってしまいます。子どもも同じです。特に集団生活である園生活では自分の思うとおりにいかないことや、我慢しなければならないことが多くあります。友だちとのけんかや遊具や道具を使う順番もそうかもしれません。大人にとっては何でもないことでも、人生経験の少ない子どもにとっては一大事です。その際には、自分の意見を主張することの大切さと同様に、場面に応じて譲ることや辛抱すること、時にはしんどくても励まし、最後までやりきることの大切さを子どもと一緒に考え、伝えていきたいと思っています。

与謝蕪村の句に「この泥が あればこそ咲け 蓮の花」とあります。蓮の花はきれいな水だけでは咲きません。一見汚い泥水があるからこそ、美しい花を咲かせます。人間も同じです。「泥」とは「煩惱」であり「困難」です。辛い思いや悩み、困難、悲しみ…。そういう身の回りの苦しみがあるからこそ、そしてそれに折れることなくひとつひとつを「糧」とすることで「美しい花」を咲かせることができる、ということです。まさに「忍辱持久」の大切さを詠んだ句といえるでしょう。

楽しいことばかりでなく困難に出会うことも子どもにとっての大切な学びです。ただそこに必要なのは、自分で解決できない事案が出た時には、「いつでも頼っておいで」「いつも見守っているからね」という保護者と子どもの、また保育者と子どもの信頼関係です。忍耐の先には必ず花が開くと信じ、日々忍辱持久に努めたいものです。

